

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センターだより

発行者：寺柿 政和/事務局：地域医療連携センター・広報委員会

大阪・関西万博は、この原稿を書いている9月末時点で、閉幕まで残すところあと2週間ほどとなり、駆け込みで連日多くの人々が足を運んでいるようです。開幕前には工期の遅れやメタンガスの発生といった課題があり、開幕後も地下鉄の事故により約3万人が足止めされるという予期せぬアクシデントもありました。半年間の会期は振り返ればあっという間だったように感じます。

55年前の大阪万博で垣間見た「未来の世界」は、その後どれほど実現してきたのでしょうか。そして今回描かれている未来予想図は、10年後・20年後の社会でどの程度達成されているのか、想像をめぐらせることができます。

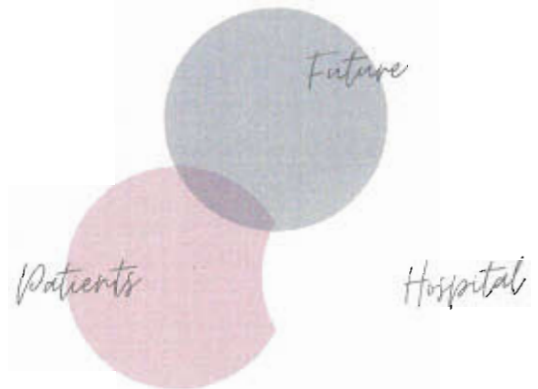
現在、急性期病院は厳しい経営環境の中にあり、それぞれの地域で医療を継続して支えるために、さまざまな知恵を出し合いながら日々の診療を続けています。先の見えない不確実な時代において、これから先がどのように変化していくのかを見通すのは容易ではありません。しかし、半世紀前に当院が誕生してから、私たちもまた変わり続けながら今日に至りました。

これからも、地域の患者さんから求められる医療を展開し、いざという時に頼りにされる病院であり続けたいと思います。

TOP MESSAGE



院長 寺柿 政和



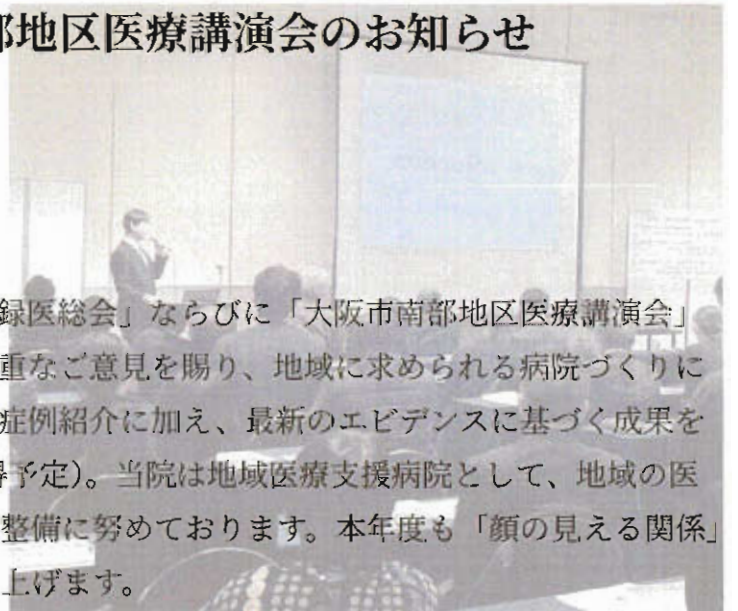
2025年度 登録医総会・大阪市南部地区医療講演会のお知らせ

開催日：2025年11月15日（土）

開催場所：都シティ大阪天王寺

- 登録医総会 17:00～17:30
- 南部地区医療講演会 17:30～19:30

今年度も昨年に続き、都シティ大阪天王寺にて「登録医総会」ならびに「大阪市南部地区医療講演会」を開催いたします。総会では登録医の先生方から貴重なご意見を賜り、地域に求められる病院づくりに反映してまいります。講演会では当院の治療実績や症例紹介に加え、最新のエビデンスに基づく成果をご紹介します（大阪府医師会 生涯教育単位取得予定）。当院は地域医療支援病院として、地域の医療機関や介護施設と連携し、安心できる医療体制の整備に努めております。本年度も「顔の見える関係」を一層強化し、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



地域医療連絡室 係長 土取 博

Advanced Medical Initiatives

先端技術



■最新ナビゲーション技術の紹介

当院は、患者さまに安心・安全な医療を提供することを使命とし、日々の診療に取り組んでおります。高度な専門性と温かみのあるケアを両立させ、患者さまが安心して治療に臨める環境づくりを目指しています。

2023年9月には、日本ストライカー株式会社が開発した最新ナビゲーション技術「Qガイダンスシステム」を導入いたしました。AI技術を融合した革新的な術中ナビゲーション支援ツールであり、脊椎・脳神経外科領域における手術の精度と安全性を飛躍的に高めるものです。術者の判断をリアルタイムで支援し、患者さまの身体的負担を最小限に抑えることで、より精密かつ効率的な手術の実現に貢献しています。

当院では、こうした先進技術の導入に加え、患者さまの心に寄り添う医療を大切にしています。医師・看護師・スタッフが連携し、チーム医療を通じて最善の治療を提供するとともに、温かみのある療養環境づくりにも力を注いでいます。

ME機器管理科 副主任 疇地 健博

Infection Control

感染制御 No.38

■手指衛生多角的戦略の効果

世界保健機関（WHO）は、毎年5月5日に「SAVE LIVES: Clean Your Hands（命を救うために手を洗おう）」キャンペーンを展開しており、2025年のテーマは「It might be gloves, it's always hand hygiene.（手袋が必要な場面もあるが、常に必要なのは手指衛生）」です。これは、手袋の過剰使用による衛生意識の低下を防ぐことを目的としたメッセージでもあります。

新型コロナ流行で手袋使用が習慣化し、不必要な場面でも着用が増えました。しかし手袋は手指衛生の代わりにならず、「清潔」と錯覚し衛生を怠る危険があります。当院は2025年度よりWHO推奨の「手指衛生多角的戦略」を導入し、強化に取り組んでいます。

【WHO 手指衛生多角的戦略】

1. 物品設備（消毒剤や洗浄設備の整備）
2. 研修教育（スタッフへの定期的な教育）
3. 測定評価（遵守率や使用量のモニタリング）
4. 現場掲示（ポスターやリマインダーの活用）
5. 組織文化（リーダーシップとチームの形成）



当院では手指衛生ラウンドを実施し、手袋着用状況や衛生実施を確認しています。その結果、消毒剤使用量は2.1倍に増加し、意識向上が見られました。課題は依然ありますが、安心・安全な医療を目指し、今後も手指衛生の取り組みを継続します。

感染防止対策室 室長 荻田 千歌

■第8回 緩和ケア研修会 Peace Project報告

7月13日（日）、当院にて【第8回 緩和ケア研修会 Peace Project】を開催しました。今回の研修会には、病院・在宅を問わず24名の医療・介護従事者が参加しました。院内の緩和ケア医に加え外部講師も招き、講義・事例検討・地域連携のグループワークやがん告知のロールプレイを通じて、緩和ケアの基本知識を学びました。

グループワークでは、在宅療養に向けた退院支援を事例に検討し、「患者の希望を叶えるために私たちができるサポートは何か」を軸に多職種が意見を交わしました。アンケートでは「多職種での意見交換で視点が広がった」「在宅復帰支援と病院緩和ケアのつながりを強化したい」「実践に役立つ内容だった」との声がありました。今後も緩和ケア教育を通じ地域に根付く活動を続けてまいります。



看護部 緩和ケア病棟 主任
緩和ケア認定看護師 大原 美穂

Peace
Project

緩和ケア研修会

8月21日の地域医療介護連携推進研修にて、リハビリテーション科「在宅ラボ」が活動報告を行いました。在宅ラボは2022年に結成され、生活期・回復期を経験した3名のセラピストで構成され、急性期で働く立場から退院後の生活を見据えたりハビリを提案できるよう知識向上を目的に活動しています。今回は、早期退院促進のために行った意識調査の結果を報告しました。調査では、経験年数による多職種連携への意識差や、在宅復帰に必要な点が曖昧という課題が明らかになりました。そのため地域の多職種の皆さまに直接ご意見を伺い、グループワークを通じて貴重な学びを得ることができました。今後は、リハビリ見学や退院前カンファレンスを積極的に進め、さらに地域の声を集めてリハビリサマリーの更新や「分かりやすい情報提供書」の作成につなげてまいります。



リハビリテーション科 副主任
在宅ラボ 沖 尚司

Community Care
Workshop Report

地域医療介護連携
推進研修報告

■身体拘束のスピーチロック

入院患者さんへの身体拘束に関する減算は、より厳格化されています。身体拘束には、フィジカルロック（身体的拘束）、ドラッグロック（薬物による拘束）、スピーチロック（言葉による拘束）の3種類があります。スピーチロックとは、言葉で行動や言動を制限し心理的に拘束することを指し、精神的自由を奪い尊厳を傷つける可能性があります。具体例として「ダメ!」「ちょっと待って!」など行動を制限する言葉、「どうしてそんなことをするの?」と叱責する言葉、「危ない!」と過剰に安全を強調する言葉があり、特に高齢者や認知症の方には強い影響を与える恐れがあります。

Patient
Safety

医療安全
No.18

医療安全管理室
室長 石津 真由美

Community Activities

地域活動



■楽しく続ける健康チェック&運動教室

リハビリテーション科では地域活動に積極的に参加しています。今回は東住吉区での高齢者健康増進プロジェクトに参画しました。本事業はフレイル・ロコモ・サルコペニア予防を通じ、健康寿命の延伸と住民交流を促進し地域の活力向上を目指す取り組みです。大阪河崎リハビリテーション大学主催、

区社会福祉協議会・地域包括支援センター共催、当院協力の体制で、区内4地区の60歳以上を対象に6か月ごとに測定を実施。当院はロコモ測定を担当し、安全確保に留意しながら検査を行いました。住民の皆さまは健康チェックや運動教室に熱心に取り組みられました。今後も地域活動を継続し、住民の皆さまと健康づくりの輪を広げていきます。

リハビリテーション科
呼吸認定理学療法士 辻 知明

Community Colors

地域のいろどり No.17

■大阪市パートナーシップ制度について

大阪市は、多様な生き方を尊重するため「パートナーシップ宣誓制度」を導入しています。同性同士など法律婚が認められない二人が宣誓することで「宣誓書受領証」「受領カード」が交付され、互いを人生のパートナーと公に証明できます。法的効力はありませんが「大切な人と共に生きる」意思を社会的に示す意義があります。医療・介護現場では「誰に面会してほしいか」「誰に説明を受けてほしいか」の尊重が重要です。この制度によりパートナーとしての立場が認められ、安心して治療やケアを受けられる環境につながります。

地域医療課 課長 杉井 健祐

■ Instagram公式アカウントを開設しました

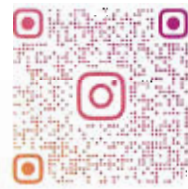
このたび当院では、公式Instagramアカウントを開設しました。研修の様子やスタッフの日常を発信し、これから医療職を目指す方や復職を考えている方に、当院の魅力をお届けしていきます。

アカウント名：東住吉森本病院公式アカウント

ユーザー名：@morimoto.hospital.official

右のQRコードからアクセスできます。

ぜひフォローして、最新情報をチェックしてください！



MORIMOTO.HOSPITAL.OFFICIAL

医療法人橘会 東住吉森本病院 地域医療連携センター

地域医療機関・施設さま専用 お問い合わせ先

メールアドレス：m_chiiki@tachibana-med.or.jp

電話：0120-65-0343 FAX：0120-10-5260

受付時間 平日 9:00～20:00

土曜日 9:00～17:00

Community Liaison Center

地域医療連携センター
センター長 大場 一輝